

(資料3)

平成23年(第5回)みどりの学術賞 選考委員会委員長コメント

平成23年(第5回)みどりの学術賞の選考にあたり、選考委員会は、「みどり」に関する学術に造詣の深い学識経験者等約350名に対し、この賞にふさわしい候補者の推薦を依頼しました。その結果、約60名の推薦が得られましたが、分子・細胞レベルで植物の営みを研究している方から、「みどり」の産業の学術的基盤の研究や、地球規模で生態系の研究をしている方まで、実に多様な分野からお名前が挙がり、「みどり」の学術の広がりとお深さを改めて思い知らされました。

選考委員会は、約半年をかけ、推薦された方々の業績を精査・検討し、次第に候補者を絞りこみ、最終的に2名の方を推薦することに決めました。お一人は、様々な「みどり」で覆われた土地を「緑被地」という概念にとりまとめ、緑被地率を新たな指標とする緑地環境計画の手法を提案し、みどりの地域づくりと自然環境保全に貢献された田畑貞壽博士であり、もうお一人は、地上のすべての生物の生命を支えている植物が、太陽の光を受けて酸素とプロトン(光合成に使われる化学エネルギーの基となる)を生み出す「みどり」の装置、光化学系II複合体を生きのまま取り出し、その全体像を世界で初めて明らかにされた佐藤公行博士であります。

われわれの生存に不可欠な酸素と炭水化物を生み出す超ミクロな世界と、住環境を包含する自然環境というマクロな世界の在りように鋭いメスを当てられた両博士の功績は、わが国の「みどりの学術」の金字塔の双壁であるといっても過言ではありません。選考委員会を代表し、両博士の永年にわたる貢献に対し心から敬意を表します。

平成23年3月7日

みどりの学術賞選考委員会
委員長 常脇 恒一郎